

～令和3年度 社会福祉法人南風荘 事業報告～

1. 社会福祉法人南風荘の事業経過及び成果

令和3年度の経営方針は昨年度に引き続き、法人の強みを活かし、弱みの改善の実現に向けた戦略の遂行とそれを支える基盤の強化を目指して事業を行いました。当法人は多角的なサービスを展開しており、そのスケールメリットを活かすべく事業所を横断してのサービスのパッケージング化に着手しました。

支援方針については、山口県発達障害者支援センターからの定期的なコンサルテーションを3事業所で実施するなど、よりご利用者お一人お一人の障害特性を理解し、専門的で高度な支援を行えるよう職員の知識・技術を高めてまいりました。また、事業所間での職員の研修制度を整備し、職員が広い視野を持ち自身の新たな可能性に気づく機会を設けました。

2. 社会福祉法人南風荘の体制

【評議員及び役員等】

役員数：理事 7名、監事 2名

評議員数：8名

理事会の開催：毎月1回の開催を原則とした。開催回数は、14回である。

評議員会の開催：定時評議員会を原則とした。開催回数は、4回である。

【各事業所のサービス及び定員】

・セルブ南風

施設入所 40名

短期入所 2名

生活介護 40名

共同生活援助 19名

・セルブときわ

生活介護 23名

就労継続支援B型 20名（主たる事業所10名＋従たる事業所10名）

・セルブ岡の辻

就労継続支援B型 20名

・セルブ藤山

就労継続支援B型 40名

- ・びあ南風
相談支援
- ・セルプジョブ・アソシエイト
就労移行支援 20名
就労定着支援

3. アクションプラン（年次行動計画）実績報告

方針展開項目

- ① 階層別教育システムを作成し・実施する
県社協のキャリアパス研修に職員を派遣した。研修後、自己学習をして法人内で研修報告会を開催した。
- ② インターンシップ・実習・ボランティアのシステム構築
インターンシップ3名、介護実習1名・ソーシャルワーク実習8名・ボランティア10名を受け入れた。
- ③ 地酒鍋島の事業廃止
3月をもって事業廃止を完了した。
- ④ 執行部の組織化
昨年に引き続き毎月開催する経営戦略会議及び毎週開催する執行部ミーティングで事業計画進捗管理・予算管理・人事案件を共有した。
- ⑤ ガバナンスの確立
労務管理強化のためのデータベース化、会計事務業務の作業標準化を実施した。

4. 総括

令和3年度はコロナウイルス対策に法人全体が影響を受けた。特にセルプ南風では保健所よりクラスター認定を受け、生活介護・短期入所事業を1か月近く閉鎖した。特にセルプ南風入所者は行動が制限されて、施設の居住エリアから3週間近く出ることができず、ご利用者様・ご家族様に大変なご心配・ご不便をおかけした。最新の感染症対策のマニュアル作りが急務である。

入所事業所では感染症のリスク管理のため、ご利用者様・のご協力のもとサービス提供量を持続可能なものとするべく調整した。特に入浴に関しては感染リスクが最も高く供給量を大幅に削減した。

一方、入所施設に対してのニーズは非常に高く供給量が間に合っておらず、短期入所・グループホームを含めた入所者の調整が必要である。

生活介護事業では支援現場にワークシステムを導入して発達障害などの重度

のご利用者様の障害特性に合った支援を行える体制を作った。また、山口県発達障害者支援センターから昨年度に引き続きコンサルテーションを受け入れ支援スキルの向上をはかった。

就労継続B型事業では、収益増の見込めない事業を廃止して効率化をはかり、収益の改善を行った。また、法人内就労継続事業所間で連携を進め、少人化と業務の効率化を行った。全事業所とも5S活動を推進し、これも業務効率向上に寄与した。

一方、利用者数が減少しており新規顧客の開拓が急務である。また、一部施設の老朽化がすすみ、改修のための積立計画が必要である。

就労移行支援事業では、就職率が全国平均54%に対し78%を達成し、全国平均を大きく上回った。これは就職活動や企業実習へスムーズに移行できる仕組みを構築して実現した。また、新規利用者獲得・実習生受け入れ・見学者受け入れを実施し、高い利用率を達成できた。

一方、高校・大学で発達障害等の診断を初めて受けた利用者が増え、その対応が課題である。また、就労継続とのプラットフォーム構築もこれからの課題である。

就労定着支援事業では、利用者数は年々増えており、令和3年度の収支は大きくプラスとなった。また、令和3年度に就職した方の離職者は0名で、高い定着率を実現できた。令和4年度はさらに利用者が増える予定であり効率的な支援スケジュールの構築が必要となる。同時にICTの活用により業務の効率化も急務である。

相談支援事業では業務の効率化に重点を置いた。具体的には各事業所ごとに相談員を決め移動時間の短縮を実現し効率化をはかることができた。これにより登録者数は減少したものの収支差額は増加した。

課題としては、次世代の相談員育成である。令和3年度は法人内の他事業所から職員の研修を受け入れたが、令和4年度も継続して研修を受け入れる予定である。

南風荘本部では、ガバナンスの強化とコンプライアンスの遵守に取り組んできた。これまで属人化していた業務の標準化と情報の共有化が実現できた。

令和4年度は中長期的な投資計画を立案することである。

社会福祉法人 南風荘
理事長 佐藤 拓生

事業活動計算書

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日 単位：千円		
サービス活動 増減の部	収益	759,500
	費用	720,192
	増減差額	39,308
サービス活動外 増減の部	収益	12,264
	費用	3,087
	増減差額	9,177
特別増減の部	収益	0
	費用	1
	増減差額	△ 1
当期活動増減差額		48,485
繰越活動 増減差額の部	前期繰越活動増減差額	251,918
	当期繰越活動増減差額	300,403
	その他の積立金取崩額	0
	次期繰越活動増減差額	300,403

資金収支計算書

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日 単位：千円		
事業活動 による収支	収入	771,765
	支出	689,629
	収支差額	82,136
設備整備等 による収支	収入	3,285
	支出	48,550
	収支差額	△ 45,265
その他の活動 による収支	収入	6,679
	支出	6,191
	収支差額	488
当期資金収支差額		37,359
前期末支払資金残高		246,524
当期末支払資金残高		283,883

財産目録

令和4年3月31日現在 単位：千円

資産の部	
流動資産	315,331
固定資産	713,807
資産合計	1,029,138
負債の部	
流動負債	53,419
固定負債	292,686
負債合計	346,105
差引純資産	683,033